

普代の海の恵み

温かな人情味に感動

北緯四〇度東端に位置する普代村の魅力は、何といつても海だ。同村きつてのビューポイントで、高さ150呷を超える黒崎展望台から見下ろすと太平洋に吸い込まれそうになる。満月に照らされて荒々しくうねり、どこまでも続いていく

と声をかけられる。優しいなまりと穏やかな笑顔で迎えられる、こちらも心がホッとする。

十月支局勤務一年になるが、知らないうちにホスピタリティあふれる村民性のとりこになってしまった。同村で十月六日、「ふだい

ンブなどの特産品販売が催される。まさに同村を「まると」楽しめる。

同村は盛岡市や県南からはかなり遠い。車で二時間半以上はかかる。「普代村ってどんな村？」という人も多いと思う。立派な観光施設はないが、ここにしかない

支局 日誌

岩手

◆久慈

日報



黒崎展望台で夕日に染まる久慈支局の新沼記者

波は幻想的。ヘリコプターや船から見る断がいのスケールの大きさに胸がキュンとなる。

こんな環境に生きる村民は豪快—と思いきや、温かい人情の持ち主がとても多い。村役場や漁港を訪れると決まって「どうぞ、ゆつくりしてってください」

まるごと海産まつり」が太田名部漁港で初めて開かれる。村、漁業関係者、商工会のほか、自治会長も実行委に参画する全村的なイベントだ。

網起こし見学、海上遊覧、魚のつかみ捕りなど体験、小中学生の神楽、荒磯太鼓の芸能部門、水揚げしたばかりのサケ料理の試食、肉厚のコ

海と人情で集客を展開する。雨降りが続いた今夏、海水浴を楽しめなかった家族も多いだろう。秋は行楽シーズン。山もいいが、普代村の海もおすすめだ。

新沼 雅和

岩手日報朝刊平成十四年九月十日付掲載(原文のまま)